

公園など2カ所 インナー新 内看板設置 ラストで仕上げ

市内全域の観光施設を記載した観光案内看板が、同公園と五老ヶ岳公園に設置されてから十五年以上が経過し、施設の書き足しなどの必要が出

で仕上げた。



店内いっぱい並べられた作品

ショップ「ビバ！」 北田辺にオープン

みずなぎ学園

知的障害者のアート作品 パンや野菜など展示販売

知的障害者施設の「みずなぎ学園」の利用者たちが制作した陶器や絵画のアート作品、パンや野菜などを展示販売する常設ショップ「ビバ！」が、1日に北田辺にオープンした。創造性豊かな作品を知ってほしいと、再スタートを切ったNPO法人・CASネットワーク(志摩敏樹理事長)が運営し、同園保護者会(今村勝治会長)がボランティア店員を務めている。同園では「街の中にお店が出来ることで作品の評価を受け、利用者の賃金につながる機会が増える」と喜んでいる。

立道さん、現代邦楽に挑む

市民会館で 箏曲ソロリサイタル

尺八 幸由 完 教師の立道月美さん(33) 11天の坊町の箏リサイタルが、

魅力を伝えていこうと、ピアノやサクソフーンなどと共演し、ジャズなどの曲を箏で演奏できるようにアレンジしている。

保護者会がボランティア店員

法人 CASネットワーク運営

志摩理事長はシマフィルム代表を務めており、舞鶴に暮らす人々の物語を描いた映画「ニワトリはハダシだ」(森崎東監督の製作総指揮をした。完成した映画は、二月にドイツのベルリン国際映画祭に招待を受け、批評家から高い評価を受けた。知的障害を持つ子供と養護学校教師らを主人公としたが、鹿原のみずなぎ学園で昨年五、六月にかけて、養護学校との設定でロケを行った。その時に障害者が生み出した作品を目にして、その独創的な魅力に引かれ、作品を紹介して賃金につながる活動を」と協力をお願いした。

市民の活動を支援することを目的としたCASは、一年間活動を休止していたが、事務所をみずなぎショップに改装、スタッフも一新して再開した。陶芸や縫製、書、箸置き、野菜、昨年からは造り始めたパンなどを販売している。店名の「ビバ」はスペイン語で「ばんざい」。これまでの福祉のイメージの言葉ではなく、明るく目を引く言葉を選んだ。

志摩さんは「作品が市民の目に触れる機会があれば、今後も支援の輪を広げていきたい」と話し

ていた。店は西舞鶴郵便局の斜め前。開店時間は午前十時～午後五時。水曜の正午から販売。ボランティア店員を募っている。(☎78・2448)

舞鶴市民新聞

発行所
(株)舞鶴市民新聞社
〒624-0905
舞鶴市福来912-1
電話 0773-78-2055
ファクス 0773-77-1750
郵便振替口座 01000-4-42544

期間限定 特別キャンペーン

平成16年9月30日まで

カーライフプラン

500万円以内
(前年年収の範囲内)

最長8年 (保証人不要)
お取引内容により最優遇固定金利
年1.8%

(標準金利年4.0%) 平成16年4月1日現在
別途保証料が必要です。
保証料: 貸出期間5年、金額100万円の場合、34,400円
詳しくは窓口までお気軽にご相談下さい。
店頭には「商品説明書」も用意しています。

この街と生きていく
京都北都信用金庫
☎0120-4910-86

舞鶴市民新聞は火曜日と金曜日の週二回、夕刊として月決め七百三十円(税込)で発行しています。購読申し込みは本社(☎78・2055)まで。

潮騒

おすぎの「百万回」ましたのキヤッチピーを信じて「トウトウ・ハー」を観た。ど一回も泣けなからよ、と思いがながら劇ヴェロゾが歌う「ルルク・パロマ」が耳に残りました。そのはず。大好きなそのウオン・カウア監督作品「ブエノスアス」のサントラ盤に収録されていたのです。いなくなった恋人のために、鳩に生まれ変わった、なぞ恋人の帰りを待つてクルククと呼んでいるという恋の歌